

## 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成27年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	北海道大学	整理番号	F01
プログラム名称	One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	新田 孝彦	プログラム コーディネーター	堀内 基広
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムで用意されているコースや企画は改良されており、プログラムとして緻密化されよくなってきている。</li> <li>・海外インターンシップ派遣や教員同行のプレインターンシップの実施、国際機関との協働活動も充実化が図られ、着実に実施されている。</li> <li>・実践的な英語教育の実施については、学生の能力とニーズに応じて様々なクラスが開講されるなどきめ細やかな対応がなされていることに加え、独自の英語能力評価プログラムを構築している点は評価できる。</li> <li>・学生の獲得については、平成27年度の応募者が減少している点は懸念されるが、国内外の広報活動の強化や、大学院生自ら説明会において学生目線で説明を行うなど努力がなされているところであり、今後の動向を注視したい。</li> <li>・学生の研究以外での支援を目的として、修学メンター制度（仮称）の導入について運営委員会で検討が開始されており、早期の実現が望まれる。</li> <li>・本プログラムの支援期間終了後の継続に向けて、終了後3年間の自主財源の確保に加えて、獣医学研究科を「国際感染症学院」と「獣医学院」へと発展的に改組する新学院構想が検討されている点は、新しいことに踏み出そうとする取組として評価できる。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は優秀ではあるものの、ハングリー精神が不足しているように思われる。大きな夢を持って語れるようになってほしい。そのためには学生自身の意識改革も必要であるが、教員自らもFD活動を積み重ねて、学生の意識を変えるための方策について議論を尽くして頂きたい。</li> <li>・グローバルリーダーとは何か、について議論する場があった方が良いのではないかと。教員と学生間の議論だけでなく教員間の議論も必要である。特に感染症対策については既存の枠組みにとらわれず新たな発想やシステムの中で考えることができる人材が必要とされている。本プログラムで輩出される人材が、その世界で主導権を握ることができるよう、どのようなグローバルリーダーを育成していくべきか議論を尽くすことが望まれる。</li> <li>・新学院構想は獣医学研究科の改組として検討されているが、上述の人材を輩出するためには獣医学研究科だけに留まるものではなく、学内の組織の一部改編も視野に入れて取り組んで頂きたい。</li> <li>・修学メンター制度については、学生の支援のみに留まらず、このプログラムを更に進化させるような仕組みとなるよう、メンター人材の選定やその役割・機能などについて工夫されたい。</li> <li>・学生のキャリアパスについては学生任せとするのではなく、教員自らも社会的なネッ</li> </ul>			

トワークの活用や各方面への PR など、学生とともにキャリアパス開拓のために努めて頂きたい。特に、これまでインターンシップ支援を行ってきたキャリアパス支援委員会を中心として早急に取り組むことが望まれる。